

生体肝移植肝動脈再建579例の手術手技総括と合併症対策に関する検討

九州大学病院、肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科において1996年10月1日から2015年5月31日までに生体肝移植ドナー手術を受けた方を対象

【はじめに】肝臓には動脈と門脈の2種類の流入血が存在します。肝移植において動脈の流入血が途絶えると胆管壊死が起こり、敗血症などの重篤な合併症が発生するため、確実な動脈再建が必要です。生体肝移植では再建する動脈が脳死肝移植と比較して細く、これまで顕微鏡下の動脈再建を行ってきました。動脈再建は流入血管の選択、グラフトに複数の動脈が存在することがあるなどのバリエーションがあり、バリエーションの選択が術後の成績に影響を及ぼすことも考えられます。動脈合併症に対する対策も少なからず経験してきました。これまでの579例の生体肝移植動脈再建手技を総括することにより、また動脈合併症にいかに取り組みできたかを検討することにより、生体肝移植がより安全性の高いものになることが期待されます。

【研究内容】1996年10月1日から2015年5月31日までに九州大学病院で生体肝移植ドナー手術を受けた579人を対象とし、肝移植情報(グラフトの種類、グラフトの動脈の種類・本数、動脈再建に用いたレシピエント流入血管、動脈径、動脈再灌流後の血流量)を診療録より取得します。該当するレシピエントの術後肝動脈関連合併症の有無、該当するレシピエントの術後肝動脈関連合併症に対する対応と結果、そして該当するレシピエントのグラフト生存の有無を診療録より取得します。以上のデータを用いて生体肝移植肝動脈再建時のバリエーション選択とその術後成績、合併症発生頻度を総括します。

【患者さんの個人情報の管理について】個人を特定できる情報については匿名化し、厳重な管理を行います。本研究の実施過程およびその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

【研究期間】研究を行う期間は承認日から2016年3月31日です。

【医学上の貢献】この研究により生体肝移植ドナー手術がより安全性の高いものになることが期待されます。

【研究機関の長】

九州大学病院長 石橋 達朗

【研究計画書および研究の方法に関する資料について】

研究計画書および研究の方法に関する資料を入手または閲覧することができます。ご希望される場合は、下記連絡先までご連絡ください。

【個人情報の開示について】

本人等からの開示の求めに応じて、保有する個人情報のうちその本人に関するものについてのみ開示を行います。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 医学研究院 外科集学的治療学講座
准教授 内山秀昭 (責任者)

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院 消化器・総合外科医局

Tel; 092-642-5466

内山 秀昭